

大川小で大泣きしてしまった

最終日、南三陸や石巻を地元の先生に案内してもらいました。見渡す限りガレキの山で防災庁舎や大川小の前に作られた祭壇では、みんな涙をこらえきれなかったようですね。

古後 残骸となった大川小の教室を見て回って、胸が詰まった。わが子を捜すお母さんの悲痛な手紙（別表）や泥に埋まった玩具をみて、不覚にも大泣きしてしまいました。

内田 防災庁舎や大川小学校を目で見て、足で歩



いて、胸がこみあげてきた。テレビと現実はこんなに違うものかなあ、と実感しました。ビルが残っていても鉄骨だけで生活の痕跡が何もない。阪神大震災とそこが一番違うところでしょうね。

小澤 大川小だけでも、まだ行方不明の子が多数いるそうです。今でも学校周辺でわが子を捜す肉親の姿が見られると聞いて、心が痛んだ。

大澤 大川小では、「ここで一緒に子供たちと遊べたらなあ」と思って、ジーンとききました。

内村 田んぼにも咲いていたヒマワリが、大川小にもぼつんと悲しそうに咲いていた。お子さんを亡くしたお母さんが植えられたとか。今度は私もヒマワリの種を持って行こう。

今後の支援は心のケアも

今後の支援はどうすべきでしょうか。

小澤 田んぼをやるなら、大物は重機を使ってやるべきでは。私たちは小さな家財を拾い集める方が効率的でしょうね。公共事業の手助けの方が良いという気持ちもある。

古後 宿泊や公演場所の選定は大切なので、今回世話になった「NPO田んぼ」との連携は大切にしましょ

う。雨天の場合の野外作業をどうするか、は考えておくべきだった。

内村 心のケアの一つとして、お年寄りの話し相手になってあげるような活動も必要でしょうね。

大澤 1年後に、同じ場所（児童館）に行ってみたい。昔遊びグループは、いつでも参加しますよ。

内田 現地へ持ち込んだ何百点という（昔遊びの）材料や作品は、うちのサークル全員が準備してくれた。何をやるにも、サポート体制はとても大切です。

そうですね。今回もダンボール65箱もの支援物資がカレッジの皆さんの協力で短期間に集まった。

大澤 登米市の避難所へ届けたら、とても喜ばれた。自治体では物資を受け付けていないので、持っていった甲斐があった。かえっこバザールで残った玩具や わ 本部の皆さんが用意してくれアメ玉の箱も、大もてでした。

司会（道満） わずかな期間でしたが、現地へ足を運んで、ほんの少しお手伝いをする事ができました。復興はまだまだ遠いという印象ですが、これからは子供たちやお年寄りへの“心のケア”も大切です。東北への支援活動はぜひ、続けたいと思っていますのでご協力をお願いします。（一同、力強くうなづく）。

（座談会は同行した渡邊佳視・芦田義和も立ち会い、8月18日に実施。まとめは南形徹がしました）

左の写真＝大川小の祭壇では手を合わせる人が絶えない

今も、わが子を捜し求める肉親

大川小学校前には追悼の祭壇が作られ、手紙やおもちゃ、飲み物が供えられています。周辺には今もわが子を捜し求める肉親が訪れています。以下は支援チームが涙で読んだ母親の手紙の一つで、古後さんが書き写したものです（抜粋して掲載）。

【わが子・巴那へ】 巴那のこと、さがし出してあげられなくて、ごめんね。夢にも出て来れないから、お父さんもお母さんも、おじいさんもおばあさんも、みんなさみしいよ。夢の中で会えたら、おもいっきり「だっこ」してあげるよ。

【わが子・巴那へ】 お父さんとお母さんは、矢本のおじいさんの家にひっこしました。矢本の家には、お兄ちゃんと巴那の使っていた物がいっぱいあって、2人のことを思い出して泣いてばかりいます。巴那は「大きくなってもお嫁さんに行かないでお母さんのそばにずっといるよ！」って言うてくれたのに…。今日も、おばあさんとお母さんは巴那に会いにここに来ました。ここにきて巴那と同じ空気を吸っていたくて…。でも、やっぱりもう一度、巴那の声が聞きたい。巴那の笑顔が見たい。巴那に会いたい。